



第112回

メダルを戦禍の祖国に

※2023年7月の毎日新聞記事を元にした文章です。

校閲し、直すべきところを指摘してください。

2023年の水泳世界選手権

(福岡)に、戦火から逃れたウクライナ選手が参加した。シンクロナイズドスイミングのアレクシーワ姉妹だ。シンクロ界でウクライナは日本のライバルだが、日本側は事前合宿の練習拠点を提供するなどの支援をしてきた。

「生きて、こうしてこの大会に参加できることはうれしいですし、ウクライナ軍で実際に戦っている人たちへの感謝を忘れずに演技をしていきたいです」

213・1559点で10位だった同年7月16日のデュエット・テクニカルルーティン決勝後、双子の姉のマリナはそう話した。ウクライナ国旗を掲げた支援者らから大きな声援を送られる中で、妹の

ウラディスラワとともに力強い演技を披露した。

母国での練習は、ロシアによる侵攻に翻弄(ほんろう)されている。

22年2月、練習拠点の東部ハルキウが激しい砲撃を受け、代表チームは一時、イタリアに避難した。同年夏に帰国し、拠点を首都キエウに移したが、キエウでは空襲警報が鳴り続けており、冬場には停電することも多い。

十分な練習環境が確保されているとは言いがたく、ここまで国際大会でカナダ、フランス、スペインと転戦しながらチームの強化を続けた。今大会の閉幕2週間前からは兵庫県尼崎市のプールで最終調整にいそしんだ。

尼崎市での合宿期間中には書道体験に参加するなど日本文化に親しむ機会もあり、2人は「日本の皆さんは親切で力になってます」と感謝の言葉を述べた。

現地入り後は、体重管理などもあって日本食を十分に堪能できていないが、大会が終われば福岡名物のとんこつラーメンを食べることを楽しみにしているという。

アレクシーワ姉妹はウクライナチームの一員を努めるほかに、デュエット・フリールーティンにも出場。ウクライナ選手が過酷な環境に置かれていることは間違いないが、2人はスポーツの世界は結果がすべてだと現実を直視する。自国の誇りを胸に福岡で演技を続けている姉妹は「何でもいいからメダルが欲しい。自分たちのベストの演技をしたい」と口を合わせた。